



陽気だより

昭和41年4月号から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で66年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

私の見た天理教

義母の信仰

日本女性のかがみのような生き方をした義母の信仰を追憶する

徳川夢声

(元無声映画弁士)

私の義母にあたる森田こう刀自は、天理教の信者だった。しかし、一代法華(私の祖母がそうであった)があるように、彼女は一代天理ともい

べき信者であった。だから彼女の遺体は、四谷の笹寺(禅宗)の墓地に眠っている。この一代天理のわけを記すと、次のような次第であった。彼女は明治九年に生まれ、二十五歳で結婚した。

その時、新郎の森田寛蔵も同年で、まだ学生だった。当時の二十五歳というと、女性としてはもう結婚適齢期を過ぎていた。また同年の組み合わせというモノか。これまた当時としては異例である。つ

まり恋愛結婚のようなものであった。周囲の反対もあって、彼女は素人下宿などで収入の道をはかり、主人の大学卒業を助けた。翌年、長男の亀雄が生まれた。産後の肥立ち悪しく、医師にもかかったが、どうも健康が思わしくない。

そのころ本所の方に天理教の支部があり、近所の人にすすめられて出かけた。問われるままに病状を訴えた。その時、神前に供えた強飯を、支部長さんに「大丈夫ですから、ただいてごらんさい」と言われ、心配しながらも食べてみた。

それまで医師の言う通り、流動食のような消化のよいものばかり取っていたのである。ところがどうだ! この神前でいただいたオコワをキツカケとして、食欲がメキメキと増進し、奇蹟のごとく健康をとりもどした。

「私の家には先祖代々のお宗旨がありますから、それを捨てるというわけにはまいりません。しかし、このご利益に對して、私一代は天理様に感謝のお祈りをささげたいと存じます」

と彼女は誓った。それから間もなく、その支部の教会が、牛込区(現新宿区)の方へ分れをつくったので、彼女はそちらへ信者として移ったらしい。やがて、主人寛蔵も信者となり、自宅の床間に祭壇を設けて、毎日の礼拝を怠らなかつた。

寛蔵は外交官となり、だんだん出世して中国各地を転々、満州で総領事をつとめ、最後はシヤム(現タイ国)の代理公使にまで進んでいった。その駐在先にも、必ず天理教の祭壇を持っていき、夫婦して拝したのである。

昭和五年九月二十六日、病を得て主人は病死した。以来

彼女は後家さんとして、実によくやつてのけた。彼女は昭和三十一年四月七日に死んだのであるから、長い長い未亡人生活である。

この未亡人生活の中に、男四人、女五人の遺児を育て上げ、それぞれ就職させ、それぞれ結婚させたのである。昭和八年ごろ、彼女は東横沿線の柿の木坂に家を新築した。無論、この新居にも立派な祭壇を、奥の間に設けた。先祖代々の位牌を取めた仏壇は、また別の部屋に安置した。ソレはソレ、コレはコレというわけ。彼女は決してその子たちに、天理教入信を強要しなかつた。

彼女は、たしかに女丈夫と言える。その一例を示すと、戦後のこと、英国のMPが、柿の木坂の家に土足で上りこんだという事件。

そのころ離れの一室を、米国生まれの二世に貸してあった。この二世君なにか不正なことをしたというので、MPが家捜しにきたわけ。靴ばきのまま、ズカズカと座敷に上りこんできたというので、彼女は奮然としてMPに食って掛かった。

月刊『陽気』
定期購読受付中

お知らせ

お店まで買いに行くのが大変。
忙しくて購入するのを忘れた。
定期購読はそんな手間を省きます。
毎月20日前後にご自宅宛に発送いたします。
(例：1月号は12月20日)

定期購読料金

1年分…3,420円(送料込)

半年分…1,710円(送料込)

陽気
1月号

特集
教祖をお慕いして

連載

- ◎養徳社エッセイ賞入選発表
- ◎最後の予科練(一)

購読に関する問合せ先

☎0120-920-398 養徳社業務部窓口

「いかなる犯罪か私にはわからない。私はただ彼に部屋を貸してあるだけだ。が、ここは私のいわば居城である。私の私の家を土足で汚すとは何事ですか。お国の軍人は礼儀というモノを知らないのか！」と詰問したら、その士官は閉口して、無礼を詫びて帰っていった。

敗戦国の婆さんにもエライのがあるぞと、その士官はあとで使者を寄越し、先日は失礼した、お食事をさしあげたいから、と招待してきた。そんなご馳走が食えるもんか、と彼女は拒絶したのである。

彼女は恐ろしく頑固であったが、また一面とても恥ずかしがりやで、娘たちがエロめいた話などすると、皺だらけの顔を真っ赤にしてイヤがっ

たのである。まさに処女のごとくだ。

意外にも彼女は大の野球ファンで、半身不自由な病人になつてからも、テレビで野球試合を見るのが何より楽しみだった。

現在、柿の木坂の家には、彼女の娘一家が二組も住んでいる。天理教の信者は一人もいない。そこで、そろそろ天理教の祭壇は、支部教会にお返しすべきではないか、という相談が出る。すると、反対説を主張するものが現われた。「いや、これはお祖母さんのまま安置しておくべきだ。これを無くすると、きっとこの家には不幸がくる……」

と言ったのが、慶応を卒業して、今は大阪の大電器会社



に就職している孫の説なのである。彼は天理教信者ではない。しかし、感謝すべきモノは心得ているのである。

養徳社営業予定

赤字は休業日

1月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	おつとめ (1日～15日) 朝7:00 夕5:00 (16日～30日) 朝7:00 夕5:15					

元旦祭 1月1日(午前5:00)
教祖130年祭 1月26日(午前10:30)

2月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	おつとめ (1日～15日) 朝7:00 夕5:30 (16日～28日) 朝6:45 夕5:45				

20年間の若者へのカウンセリングから生まれたところの手引書

好評発売中

子どもは犬から
猫に変わる

天理時報「人生相談」回答者

古市俊郎

(心理カウンセラー・福之泉分教会長)

B6判208頁・定価=1,000円+税 養徳社 ☎0120-920-398 ©いしかわかずはる、Courtesy of YUKARI ART



Facebook で最新情報をチェック!

<https://www.facebook.com/yotokusha>

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいませよう、お願い申し上げます。
<書籍・陽気のご購読方法について>前払いをお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号00990-3-17694番 加入者名(株)養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を送らせて頂きます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社業務部